

E—3 姫路市における住居の実状(第4報)  
—市街地改造事業による鉄筋住宅の  
すまい方—

姫路短大 末政 清子  
○衣畑 怜子  
賢明女子学院短大 安野 礼

姫路は近世城下町として歴史的、地理的条件に制約されて発展してきたが、現代の日本経済の高度成長、工業の急激な発展により臨海工業都市として、他都市同様、公害をはじめ都市問題はやかましい。ことに幹線道路国道2号線が、市の中心部を東西に走っている。幅員11mの旧道路にあふれるばかりの交通量で、附近の住民は、交通公害になやまされていた。これらの被害を少しでも緩和する目的で、国道幅員の拡張と市街地整備他多目的の市街地改造事業として、市がはじめて行った。お城の西南部船場地区は戦災をうけず焼け残った古い小住宅の密集地域であった。これらをこわしその上に新しく4階建の鉄筋ビル(1階2階商店、3階4階住宅)を建て元の地名をビル名としたものである。その各棟の3階4階の住宅部分について住み方を調査した。

1. 与えられた鉄筋住宅をどのように住みこなしているか。うまい住み方の工夫があるかをみる。

2. 1. アンケート用紙配布記入依頼

2. 訪問聞き取り調査

3. 間取りと家具配置を縮尺1/50で採集

3. 同じ2DK, 3DK, 4DKの間取りを、その経済状態、生活習慣、家族構成、職業等により各家それぞれに住み方は同じでない。

以上を事例的に比較しながら報告する。